

会議名	第2回厚木市観光振興推進委員会
日時	令和2年9月10日(木) 14時～15時30分
場所	厚木市役所第2庁舎 16階会議室B
出席者	出席者 11人 厚木市観光振興推進委員会委員7人 オブザーバー1人(一般社団法人厚木市観光協会専務理事兼事務局長) 事務局3人(観光振興課長、観光振興係長、観光振興課副主幹)

会議の経過は次のとおり。

1 開 会

厚木市産業振興部観光振興課長

2 挨拶

厚木市観光推進委員長

3 議 題

- (1) 厚木市観光振興計画の構成について 議事進行：委員長、説明：事務局
資料1に基づき説明。

【意見等】

(委員長) アンケート調査について、第3章と資料編の2か所に項目があるが、第3章には調査結果全体についての総括を、資料編には具体的な調査結果について掲載するという事か。

(事務局) そのとおりである。

- (2) 厚木市観光振興計画の骨子について 議事進行：委員長、説明：事務局
資料2、参考資料1に基づき説明。

【意見等】

(委員長) 資料2の16ページ「(3) 市内で実施した取組の整理」で、厚木市観光協会とあつき観光ボランティアガイドの取組について記載があるが内容はどうか。

(委員) 内容に関しては特に不備なくまとめられている。コロナ禍の中で従来の活動が実施出来ない状況にある。先月、観光客の入込客数調査を4か所で実施したが、昨年の8月同時期の4,166人と比較すると今年は4,800人であった。今年は観光客数が少ないのではないかという予想に反して、出かける人が多いと分かり嬉しい結果だった。地点別にみると、飯山温泉は減少していたが、広沢寺温泉・七沢森林公園・相模川三川合流地点などは従来よりも入込客数が多かった。ヤフーのトップニュースで、本厚木駅が「コロナ禍で借りて住みたい街ランキング(首都圏版)」1位にランクインしたことが報道されていた。都会からのアクセスのよさや自

然に近いことについて東京都民は魅力を感じている。資料はその点について網羅されており、これからの観光について期待できるのではないかと思う。

(委員長) 認知度が改善されつつあると考えて良いのか。

(委員) そのように感じている。

(委員長) 資料2の36ページでは認知度が低いという結果が出ている。

(委員) 丹沢大山国定公園や飯山温泉郷・東丹沢七沢温泉郷は、意外と認知されているのではないかと感じた。細かい資源についてはまだまだ認知が低い。

(オブザーバー) 参考資料1の厚木市観光協会事業報告については今日初めて見た資料である。また、掲載されることについて知らなかったため驚いている。現計画の計画期間中(平成29年～令和2年)の取組について記載しているのか、それとも昨年度の活動についてのみ記載しているのか。どのような趣旨で書かれているのか。

(事務局) 参考資料1については昨年度の取組についてまとめている。

(オブザーバー) 計画期間があつて次の計画をつくるという考えであるなら、昨年1年間のことを記載するより計画期間の総括を書くべきではないか。資料をつくる場合には相談いただきたい。先ほど入込客数調査の話が出た。統計的な数字はすごく大切だが、根拠がよく分からない。厚木市の入込調査は、神奈川県が厚木市に委託し、厚木市が厚木市観光協会に委託し、厚木市観光協会があつぎ観光ボランティアガイド協会に委託しているが、他の市は別の手法で調査を実施している。発注元の観光振興課には調査方法について実際の現場で見るように伝えている。伊勢原市や秦野市に聞くと、観光協会ではなく市が調査を実施しているという。調査方法を変えると様々な問題も出てくるが、統計データの収集は計画づくりの原点であるため、他の市の調査方法を参考に調査手法について見直すべきではないか。コンサルの方で、他の自治体の入込客数の数字の取り方について把握しているか。

(事務局) 自治体ごとの調査手法については把握できていないが、基本的な手法としては、主要な観光施設について入込調査を行い、それらを合算してとりまとめている。

(オブザーバー) 神奈川県内の入込客数調査の方法についてコンサルに調べてもらうのはどうか。厚木市の統計の取り方に問題がないか、整理をした方がいい。

(委員長) 資料2の中で、神奈川県内の統計データは多数出ているが、それより厚木市が県・全国の中でどのくらいを占めているのか、他の場所に比べて観光客が来ているのか来ていないのかを知りたい。

(オブザーバー) 資料2の37～39ページについては、現計画よりも内容が薄いように感じるが、今後肉付けされ、最終的には現計画と同等の厚みになるのか。

(事務局) 今後、基本方針について具体的な内容を追加していく。

(オブザーバー) 現計画の内容の方が良かった気がする。現計画の内容を事務局内で確認の上、必要な情報は改定後の計画にも記載いただきたい。

- (委員) 資料2の37ページ「(3) 広域エリアでの周遊強化」について、宮ヶ瀬では平成30年度に入込客数がぐっと増えており、大山も新東名高速道路の伊勢原大山インターの開業によって伸びていくと思われる。それに比べると、七沢・飯山の入込客数は90万人と少ない。県央地域の中心観光地である宮ヶ瀬と大山の間をあるのが厚木市であるため、両観光地を結ぶための広域的な施策を出してほしい。
- (委員長) 交通の問題について、何か意見はあるか。
- (委員) 先ほど、広沢寺温泉の入込客数が減っていないという話があった。神奈川中央交通では、利用者が集中する午後3時頃に七沢、広沢寺方面からの臨時便を出していた。コロナ禍の中、乗客数は極端ではないものの減っている状況であり、現状は臨時便を出さずに運行できている。また、バスがないから行きたい場所に行けない、という情報は営業所に直接来ていないが、市に観光客等から問い合わせがある場合は、その旨弊社にもお伝えいただきたい。資料2の36ページで、市外の人から見た厚木市の観光については満足度が高く認知度は低いという結果だが、次も来たいか、ということに関して調査はしているのか。再来訪意向についてコメント付きで質問することが次につながるのではないか。また、認知度が低いというのはどういうことか。私も市外に住んでおり、厚木市に仕事で来ているが、あつぎ鮎まつりは知っていた。しかし、何をやっているか、祭りの中身までは知らなかった。内容を伝えるもの、目を引くものがあるのか。市に来るまで知らなかった。せっかくだとお祭りだと思うので、あつぎ鮎まつりだけではないが、PR・宣伝について考えてほしい。
- (委員長) あつぎ鮎まつりは花火で検索して出てくると思う。あつぎ鮎まつりでさえ認知度が低いのはなぜかと思う。認知度を上げるための具体的な施策はどのように盛り込まれているか。
- (事務局) PR・宣伝の不足は感じている。具体的な施策については今後検討する必要があるが、HPやSNSを使いながら、もしくはパンフレットを目立つ場所に置くなど考えている。
- (委員) 「箱根・小田原」や「鎌倉」のような通称の名前が厚木にはない。それぞれの観光地が自己主張している。1つの案としては「東丹沢」というエリアの中の飯山、七沢のようにするのはどうか。認知度の少ないもの同士が主張するのではなく、傘をかけるような名前があったらいい。参考資料1で、周辺市町村が広域での連絡会を持っているということだが、このあたりを1つのネーミングにして相乗効果を出すという話は出てこないのか。
- (事務局) ネーミングまでは出ていないが、1つのエリアとして観光振興を進めていくという話にはなっている。有名な観光地は市や県の名前よりも観光ポイントの名前が前に出ている。このエリアにはそれが欠けているように思った。
- (委員長) 例えば「箱根〇〇」、「湘南〇〇」のようにエリアの名前をかぶせるという方法がある。あゆコロちゃんは、「鮎」と「ホルモン」

を付けたネーミングとなっている。名前の付け方について方向性を定めたほうがよいのか。

(オブザーバー) 資料2の28ページにあるように、去年は厚木市・愛川町・清川村で議論して「厚木・愛甲エリアの活性化に向けた広域観光振興戦略」を策定した。基本戦略2の①「エリア全体の観光ブランドの確立、広域観光エリアとしての一体感の醸成」が、エリアの名前を付けて広域観光エリアとしての一体感をつくるという話である。併せて、情報発信プラットフォームと観光ブランドをつくりプロモーションを行うという話までたどり着いている。具体的なエリアの名前、施策に関しては、新東名高速道路の全線開通に合わせて話を進めていきたい。

(委員長) 具体的なエリアの名前については議論されているのか。

(オブザーバー) 具体化まではされていないが、「安曇野」のように小さな村や町などの地域を一括りにする名前を付けてブランディングをするという話になっている。この半年間はコロナの影響等で議論が進んでいないが、新東名高速道路の全線開通を目途に少しずつ進めていく。なお、市内の観光事業者からも、厚木市だけでやっても太刀打ちできないため、広域でのブランディングを進めるべきだと言われている。なぜ認知度が低いのかという話で、情報発信が必要との話があった。資料2の37ページに課題、39ページに具体的な施策があるが情報発信についての話がかかれていない。広域ブランドと厚木市ブランドの二重構造が必要となる。それぞれの地域固有のブランドがあってそれを全体のブランドで包んでいく、という方法はどこの地域でもやっている。厚木市としての観光ブランディングについて記載を加えてほしい。すべての項目に通じるが、市内・周辺市町村・広域の三重構造の情報発信への仕組みをどのようにつくるかは重要である。今のところほとんど書かれていないが、基本方針に盛り込んでほしい。

(3) 各調査結果の報告について 議事進行：委員長、説明：事務局

ア 厚木市民の観光振興に関する意識調査結果

資料3、資料3別紙に基づき説明。

【意見等】

(委員長) 年代、職業、世帯構成など属性があるが、属性ごとにみた認知度等は出しているか。

(事務局) 今のところ確認出来ていない。特徴が出そうなところについては分析をしていきたい。

イ 厚木市の観光に対するニーズ調査結果

資料4に基づき説明。

【意見等】

(委員長) 31ページ以降は、アンケートの際に実際に表示した観光資源の画像や説明文ということか。

(事務局) その通りである。

(委員長) 15ページの東京都の散布図について、他の散布図と全く傾向が

異なり、右肩下がりの結果になっている。理由として何か言えることはあるか。

(事務局) 観光地としての認知がされていない点が、他の地域と違う点だと思われる。少しでも観光地としての認知があれば、認知度として上がる、あるいはそれに付随して魅力度が上がることもある。東京都民に対しては、そもそも観光地としてのイメージが弱いと思われる。細かな分析はまだできていない。

(委員長) 観光資源について認知されているのに、魅力が低いというのは問題である。

(オブザーバー) 7ページの訪問目的のところ、グラフの形がおかしい。数値が間違っているのか、それともグラフが間違っているのか。

(事務局) この設問は複数回答であるためグラフが間違っており、円グラフではなく棒グラフにするのが正しい。

(オブザーバー) 24ページでは、居住地ごとにみた観光資源ごとの回答状況の記載があるが、回答者全体の数字はどこにあるのか。

(事務局) 20ページ目に全体を示したグラフがある。24ページに全体のグラフが掲載されていないのは説明として不親切であった。

(オブザーバー) 事務局宛に昨日数字がおかしいことを指摘した。前回の委員会では、厚木市を訪問しないような広域を対象としたようなアンケートには意味がないという話をさせていただいた。今回のアンケート結果では、プロットされる場所がかたまっているマトリックス表がそのことを示しており、アンケート自体が良くなかったことの証明になっている。なお、15ページの東京都民の結果を抽出した散布図についてはこれで正しいのか。誤った出し方をしているという印象を受ける。

(事務局) 数字の方は再度事務局内で確認する。

(オブザーバー) 前回の委員会では愛知の方まで対象地域に含まれていたため、ある程度地域は絞ったが、良い結果は出ていない。観光計画策定に当たっての調査について、他の市では観光地に来ている観光客を対象としている。入込客数調査と同じように実際に観光に来ている人たちに聞くことが重要ではないか。費用がかかるためWEBで行うという気持ちもわかるが、計画策定の役に立つ調査結果になっていない。とはいえ、今回調査を実施したのであれば、これを総括してどの部分に計画に入れ込むのかを説明してほしい。アンケートの生の数字を出すのではなく、読み解いた内容、傾向や特色を出すべきである。また、自由記入欄の内容を説明されていたが、説明するならアンダーラインを入れるなどの工夫が必要である。アンケート結果をどういかにするかをまとめた資料を入れるべきである。どうやって計画に盛り込むのかここにいる人が誰も分からないのであれば、このアンケートは何だったのかと思う。現在実施中の観光事業者等に対するアンケートは、私の方で作成させていただいた。この結果については、ペーパー1枚で読み解いた内容、傾向や特色等を示してほしい。

(委員長) 県外の3分の1は東京都のデータであることから、15ページに

（事務局） については数字がおかしいと思われる。
後程訂正し、委員全体に配信させていただく。

ウ 観光事業者等に対する調査について
資料5-1、資料5-2に基づき説明。

【意見等】

特になし

4 その他 議事進行・説明：事務局
次回の会議は、10/15（木）14時からで調整する。

5 閉 会

以上